

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5622443号  
(P5622443)

(45) 発行日 平成26年11月12日(2014.11.12)

(24) 登録日 平成26年10月3日(2014.10.3)

(51) Int.Cl. F I  
G O 3 B 5/00 (2006.01) G O 3 B 5/00 J

請求項の数 10 (全 26 頁)

(21) 出願番号	特願2010-131389 (P2010-131389)	(73) 特許権者	000002233
(22) 出願日	平成22年6月8日(2010.6.8)		日本電産サンキョー株式会社
(65) 公開番号	特開2011-257556 (P2011-257556A)		長野県諏訪郡下諏訪町5329番地
(43) 公開日	平成23年12月22日(2011.12.22)	(74) 代理人	100090170
審査請求日	平成25年5月9日(2013.5.9)		弁理士 横沢 志郎
		(74) 代理人	100125690
			弁理士 小平 晋
		(74) 代理人	100142619
			弁理士 河合 徹
		(74) 代理人	100153316
			弁理士 河口 伸子
		(72) 発明者	和出 達貴
			長野県諏訪郡下諏訪町5329番地 日本 電産サンキョー株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 振れ補正機能付き光学ユニット

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

固定体と、

光学素子を保持する可動モジュールと、

該可動モジュールの底部と前記固定体との間において前記可動モジュールを揺動可能に支持する揺動支点と、

前記可動モジュールの外周面と前記固定体との間において、前記揺動支点を中心に前記可動モジュールを前記光学素子の光軸方向に交差する2つの軸線の周りに揺動させる振れ補正用駆動機構と、

を有する振れ補正機能付き光学ユニットにおいて、

前記可動モジュールの底部と前記固定体との間には、前記2つの軸線のうちの一方の軸線に光軸方向で重なる位置で前記可動モジュールの変位を検出する第1フォトリフレクタと、前記2つの軸線のうちの他方の軸線に光軸方向で重なる位置で前記可動モジュールの変位を検出する第2フォトリフレクタと、が設けられているとともに、前記第1フォトリフレクタおよび前記第2フォトリフレクタに対して前記光軸方向で重なる位置を避けて、前記光軸方向に対して交差する方向に延在するフレキシブル配線基板が配置され、

前記第1フォトリフレクタおよび前記第2フォトリフレクタは、長方形の平面形状を備え、

前記第1フォトリフレクタおよび前記第2フォトリフレクタにおける長辺の延在方向と、前記フレキシブル配線基板の延在方向とは平行であることを特徴とする振れ補正機能付

10

20

き光学ユニット。

【請求項 2】

前記可動モジュールの底部と前記固定体との間には、前記光軸方向に対して交差する方向に延在してから逆方向に折り返されて前記可動モジュールに固定されるように形成された折り返し部分を有する帯状部分を備えたフレキシブル配線基板が配置され、

前記帯状部分は、前記第 1 フォトリフレクタおよび前記第 2 フォトリフレクタに対して前記光軸方向で重なる位置を避けるように配置されていることを特徴とする請求項 1 に記載の振れ補正機能付き光学ユニット。

【請求項 3】

前記フレキシブル配線基板の前記帯状部分は、長さ方向の途中部分に、前記帯状部分の前記延在方向に沿って延在するスリットが形成されており、

前記フレキシブル配線基板の前記スリットと重なる位置に、前記第 1 フォトリフレクタおよび前記第 2 フォトリフレクタのいずれか一方が配置されていることを特徴とする請求項 2 に記載の振れ補正機能付き光学ユニット。

【請求項 4】

前記振れ補正用駆動機構は、前記可動モジュールを構成する角筒状胴部を有するケースの 4 つの外面に固定された平板状の 4 つの永久磁石と、前記固定体を構成する角筒状胴部を有するカバーの 4 つの内面に配置された 4 つのコイル部とを備え、

前記 4 つの永久磁石と前記 4 つのコイル部とにより、前記 2 つの軸線の周りに前記可動モジュールを揺動させるようにし、

前記フレキシブル配線基板の前記帯状部分に形成された前記スリットの延在方向は、前記 2 つの軸線のうちのひとつと同一方向であることを特徴とする請求項 3 に記載の振れ補正機能付き光学ユニット。

【請求項 5】

前記第 1 フォトリフレクタおよび前記第 2 フォトリフレクタは、互いの発光部同士が接近する向き、あるいは互いの受光部同士が接近する向きに配置されていることを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れか一項に記載の振れ補正機能付き光学ユニット。

【請求項 6】

前記第 1 フォトリフレクタにおいて光軸方向と交差する方向に向く 4 つの側面部のうち、少なくとも前記第 2 フォトリフレクタが位置する側に向く 2 つの側面には遮光層が設けられ、

前記第 2 フォトリフレクタにおいて光軸方向と交差する方向に向く 4 つの側面部のうち、少なくとも前記第 1 フォトリフレクタが位置する側に向く 2 つの側面には遮光層が設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れか一項に記載の振れ補正機能付き光学ユニット。

【請求項 7】

前記第 1 フォトリフレクタおよび前記第 2 フォトリフレクタは、前記可動モジュールの底部に設けられ、

前記固定体において前記第 1 フォトリフレクタと光軸方向で重なる第 1 反射部、および前記固定体において前記第 2 フォトリフレクタと光軸方向で重なる第 2 反射部は、前記固定体において前記第 1 反射部の周りに位置する部分および前記第 2 反射部の周りに位置する部分より前記可動モジュールの底部から離間する方向に凹んでいることを特徴とする請求項 1 乃至 6 の何れか一項に記載の振れ補正機能付き光学ユニット。

【請求項 8】

前記第 1 フォトリフレクタおよび前記第 2 フォトリフレクタは、前記可動モジュールの底部に設けられ、

前記固定体において前記第 1 フォトリフレクタと光軸方向で重なる第 1 反射部、および前記固定体において前記第 2 フォトリフレクタと光軸方向で重なる第 2 反射部は、前記固定体において前記第 1 反射部の周りに位置する部分および前記第 2 反射部の周りに位置する部分と同一平面上にあることを特徴とする請求項 1 乃至 6 の何れか一項に記載の振れ補

10

20

30

40

50

正機能付き光学ユニット。

【請求項 9】

前記固定体において前記可動モジュールの底部と対向する部分は、熱処理により非磁性化した金属部品からなることを特徴とする請求項 1 乃至 8 の何れか一項に記載の振れ補正機能付き光学ユニット。

【請求項 10】

前記可動モジュールの底部は、前記第 1 フォトリフレクタおよび前記第 2 フォトリフレクタが実装された基板からなり、

当該基板において前記第 1 フォトリフレクタおよび前記第 2 フォトリフレクタが実装された面とは反対側の面には、撮像素子が実装されていることを特徴とする請求項 1 乃至 9 の何れか一項に記載の振れ補正機能付き光学ユニット。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、カメラ付き携帯電話機等に搭載される振れ補正機能付き光学ユニットに関するものである。

【背景技術】

【0002】

近年、携帯電話機は、撮影用の光学ユニットが搭載された光学機器として構成されている。かかる光学ユニットにおいては、ユーザーの手振れによる撮影画像の乱れを抑制するために、レンズの周りに角速度センサ、フォトリフレクタ、振れ補正用駆動機構を配置し、角速度センサによる振れの検出結果に基づいて、振れ補正用駆動機構を制御するとともに、レンズの位置をフォトリフレクタで監視する技術が提案されている（特許文献 1 参照）。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2002 - 207148 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

30

【0004】

しかしながら、特許文献 1 に記載の構成のように、レンズの周りにフォトリフレクタや振れ補正用駆動機構を配置すると、光軸方向に対して交差する方向のサイズが極めて大きくなるという問題点がある。かかる問題点は、撮像用の光学ユニットにおいて手振れを補正する場合に限らず、光学ユニットにおいて振れを補正する場合全般において共通する問題点である。

【0005】

以上の問題点に鑑みて、本発明の課題は、光学素子を備えた可動モジュールに対してフォトリフレクタや振れ補正用駆動機構を設けた場合でも、光軸方向および光軸方向に対して交差する方向のサイズの増大を抑えることができる振れ補正機能付き光学ユニットを提供することにある。

40

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決するために、本発明では、固定体と、光学素子を保持する可動モジュールと、該可動モジュールの底部と前記固定体との間において前記可動モジュールを揺動可能に支持する揺動支点と、前記可動モジュールの外周面と前記固定体との間において、前記揺動支点を中心に前記可動モジュールを前記光学素子の光軸方向に交差する 2 つの軸線の周りに揺動させる振れ補正用駆動機構と、を有する振れ補正機能付き光学ユニットにおいて、前記可動モジュールの底部と前記固定体との間には、前記 2 つの軸線のうちの一方の軸線に光軸方向で重なる位置で前記可動モジュールの変位を検出する第 1 フォトリフレ

50

クタと、前記２つの軸線のうちの他方の軸線に光軸方向で重なる位置で前記可動モジュールの変位を検出する第２フォトリフレクタと、が設けられていることを特徴とする。

【０００７】

本発明に係る振れ補正機能付き光学ユニット（光学ユニット）では、可動モジュールを揺動させる振れ補正用駆動機構が設けられているため、光学ユニットに手振れ等の振れが発生した際、かかる振れを相殺するように可動モジュールを揺動させることができる。このため、光学ユニットが振れても光軸の傾きを補正することができる。また、可動モジュールが揺動する際の２つの軸線のうちの一方の軸線に光軸方向で重なる位置に第１フォトリフレクタが設けられ、他方の軸線に光軸方向で重なる位置に第２フォトリフレクタが設けられているため、第１フォトリフレクタおよび第２フォトリフレクタによって、２つ軸線毎の可動モジュールの振れを監視し、制御することができる。さらに、振れ補正用駆動機構は、可動モジュールの外周面と固定体との間に設けられている一方、第１フォトリフレクタおよび第２フォトリフレクタは、揺動支点が設けられている可動モジュールの底部と固定体との間を利用して設けられているので、可動モジュールに対してフォトリフレクタや振れ補正用駆動機構を設けた場合でも、光軸方向および光軸方向に対して交差する方向のサイズの増大を抑えることができる。

10

【０００８】

また、本発明の特徴は、前記可動モジュールの底部と前記固定体との間には、前記第１フォトリフレクタおよび前記第２フォトリフレクタに対して前記光軸方向で重なる位置を避けて、前記光軸方向に対して交差する方向に延在するフレキシブル配線基板が配置され、前記第１フォトリフレクタおよび前記第２フォトリフレクタは、長方形の平面形状を備え、前記第１フォトリフレクタおよび前記第２フォトリフレクタにおける長辺の延在方向と、前記フレキシブル配線基板の延在方向とは平行であることにある。かかる構成によれば、フレキシブル配線基板の幅方向で第１フォトリフレクタおよび第２フォトリフレクタが占める領域が狭いので、広い幅寸法をもってフレキシブル配線基板を延在させることができる。

20

【０００９】

本発明において、前記可動モジュールの底部と前記固定体との間には、前記光軸方向に対して交差する方向に延在してから逆方向に折り返されて前記可動モジュールに固定されるように形成された折り返し部分を有する帯状部分を備えたフレキシブル配線基板が配置され、前記帯状部分は、前記第１フォトリフレクタおよび前記第２フォトリフレクタに対して前記光軸方向で重なる位置を避けるように配置されていることが好ましい。

30

【００１０】

本発明において、前記フレキシブル配線基板の前記帯状部分は、長さ方向の途中部分に、前記帯状部分の前記延在方向に沿って延在するスリットが形成されており、前記フレキシブル配線基板の前記スリットと重なる位置に、前記第１フォトリフレクタおよび前記第２フォトリフレクタのいずれか一方が配置されていることが好ましい。

【００１１】

本発明において、前記振れ補正用駆動機構は、前記可動モジュールを構成する角筒状胴部を有するケースの４つの外面に固定された平板状の４つの永久磁石と、前記固定体を構成する角筒状胴部を有するカバーの４つの内面に配置された４つのコイル部とを備え、前記４つの永久磁石と前記４つのコイル部とにより、前記２つの軸線の周りに前記可動モジュールを揺動させるようにし、前記フレキシブル配線基板の前記帯状部分に形成された前記スリットの延在方向は、前記２つの軸線のうちのひとつと同一方向であることが好ましい。

40

【００１２】

本発明において、前記第１フォトリフレクタおよび前記第２フォトリフレクタは、互いの発光部同士が接近する向き、あるいは互いの受光部同士が接近する向きに配置されていることが好ましい。かかる構成によれば、第１フォトリフレクタの発光部と第２フォトリフレクタの受光部との間、および第２フォトリフレクタの発光部と第１フォトリフレクタ

50

の受光部との間に十分な距離を確保することができるので、第1フォトリフレクタと第2フォトリフレクタとの間でのクロストークを防止することができる。

【0013】

本発明において、前記第1フォトリフレクタにおいて光軸方向と交差する方向に向く4つの側面部のうち、少なくとも前記第2フォトリフレクタが位置する側に向く2つの側面には遮光層が設けられ、前記第2フォトリフレクタにおいて光軸方向と交差する方向に向く4つの側面部のうち、少なくとも前記第1フォトリフレクタが位置する側に向く2つの側面には遮光層が設けられていることが好ましい。かかる構成によれば、第1フォトリフレクタの発光部から出射された光が第2フォトリフレクタの受光部に入射することを防止することができ、第2フォトリフレクタの発光部から出射された光が第1フォトリフレクタの受光部に入射することを防止することができるので、第1フォトリフレクタと第2フォトリフレクタとの間でのクロストークを防止することができる。

10

【0014】

本発明において、前記第1フォトリフレクタおよび前記第2フォトリフレクタは、前記可動モジュールの底部に設けられ、前記固定体において前記第1フォトリフレクタと光軸方向で重なる第1反射部、および前記固定体において前記第2フォトリフレクタと光軸方向で重なる第2反射部は、前記固定体において前記第1反射部の周りに位置する部分および前記第2反射部の周りに位置する部分より前記可動モジュールの底部から離間する方向に凹んでいることが好ましい。かかる構成によれば、第1フォトリフレクタと第1反射部との間、および第2フォトリフレクタと第2反射部との間に十分な距離を確保する必要がある場合でも、固定体には可動モジュールの底部に近接する部分を設けることができ、かかる近接部分に揺動支点を設ければ、揺動支点が占有する領域が狭く済む。それ故、可動モジュールの底部と固定体との間に第1フォトリフレクタおよび第2フォトリフレクタを配置するスペースを確保することができる。

20

【0015】

本発明において、前記第1フォトリフレクタおよび前記第2フォトリフレクタは、前記可動モジュールの底部に設けられ、前記固定体において前記第1フォトリフレクタと光軸方向で重なる第1反射部、および前記固定体において前記第2フォトリフレクタと光軸方向で重なる第2反射部は、前記固定体において前記第1反射部の周りに位置する部分および前記第2反射部の周りに位置する部分と同一平面上にある構成を採用してもよい。

30

【0016】

本発明において、前記固定体において前記可動モジュールの底部と対向する部分は、熱処理により非磁性化した金属部品からなることが好ましい。固定体において可動モジュールの底部と対向する部分を製作する際、SUS304等の金属材料に機械加工を行なうと、磁性を帯びることがあるが、熱処理により非磁性化すれば、光学ユニットを組み立てる際、永久磁石との吸着等を防止することができる。また、SUS304等の金属材料に熱処理を行うと、反射率が高くなるので、反射率が高い第1反射部および第2反射部を設けることができる。

【0017】

本発明において、前記可動モジュールの底部は、前記第1フォトリフレクタおよび前記第2フォトリフレクタが実装された基板からなり、当該基板において前記第1フォトリフレクタおよび前記第2フォトリフレクタが実装された面とは反対側の面には、撮像素子が実装されていることが好ましい。かかる構成によれば、第1フォトリフレクタおよび第2フォトリフレクタを撮像素子と同一の基板に実装することができるので、部品点数を削減することができる。

40

【発明の効果】

【0018】

本発明に係る振れ補正機能付き光学ユニット（光学ユニット）では、可動モジュールの外周面と固定体との間を利用して可動モジュールを光軸方向に交差する2つの軸線の周りに揺動させる振れ補正用駆動機構が設けられているため、光学ユニットに手振れ等の振れ

50

が発生した際、可動モジュールを揺動させることができる。このため、光学ユニットが振れても光軸の傾きを補正することができる。また、可動モジュールが揺動する際の２つの軸線のうちの一方の軸線に光軸方向で重なる位置に第１フォトリフレクタが設けられ、他方の軸線に光軸方向で重なる位置で前記可動モジュールの変位を検出する第２フォトリフレクタが設けられているため、２つ軸線毎の可動モジュールの振れを制御することができる。さらに、振れ補正用駆動機構は、可動モジュールの外周面と固定体との間に設けられている一方、第１フォトリフレクタおよび第２フォトリフレクタは、揺動支点が設けられている可動モジュールの底部と固定体との間を利用して設けられているので、可動モジュールに対してフォトリフレクタや振れ補正用駆動機構を設けた場合でも、光軸方向および光軸方向に対して交差する方向のサイズの増大を抑えることができる。

10

【図面の簡単な説明】

【００１９】

【図１】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットを携帯電話機等の光学機器に搭載した様子を模式的に示す説明図である。

【図２】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットの外観等を示す斜視図である。

【図３】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットに搭載されている撮像ユニット１の構成を模式的に示す断面図である。

【図４】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットに搭載されている撮像ユニットの分解斜視図である。

20

【図５】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットの内部構造を示す断面図である。

【図６】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットを被写体側からみたときの分解斜視図である。

【図７】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットを被写体側とは反対側からみたときの分解斜視図である。

【図８】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットに設けたフォトリフレクタの説明図である。

【図９】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットにおけるフォトリフレクタとフレキシブル配線基板等との位置関係を示す説明図である。

30

【図１０】本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットにおける２つのフォトリフレクタのレイアウトを示す説明図である。

【図１１】本発明の実施の形態２に係る振れ補正機能付きの光学ユニットにおける２つのフォトリフレクタのレイアウト等を示す説明図である。

【図１２】本発明の実施の形態３に係る振れ補正機能付きの光学ユニットにおける２つのフォトリフレクタのレイアウトを示す説明図である。

【図１３】本発明の実施の形態４に係る振れ補正機能付きの光学ユニットにおける２つのフォトリフレクタのレイアウト等を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【００２０】

40

以下、本発明を実施するための最良の形態について、図面を参照しながら説明する。なお、以下の説明においては、光学素子ユニットとして撮像ユニットの手振れを防止するための構成を例示する。また、以下の説明では、互いに直交する３方向を各々Ｘ軸、Ｙ軸、Ｚ軸とし、光軸Ｌ（レンズ光軸）に沿う方向をＺ軸とする。また、以下の説明では、各方向の振れのうち、Ｘ軸周りの回転は、いわゆるピッチング（縦揺れ）に相当し、Ｙ軸周りの回転は、いわゆるヨーイング（横揺れ）に相当し、Ｚ軸周りの回転は、いわゆるローリングに相当する。また、Ｘ軸の一方側には＋Ｘを付し、他方側には－Ｘを付し、Ｙ軸の一方側には＋Ｙを付し、他方側には－Ｙを付し、Ｚ軸の一方側（被写体側とは反対側）には＋Ｚを付し、他方側（被写体側）には－Ｚを付して説明する。

【００２１】

50

## 〔実施の形態１〕

## （撮影用の光学ユニットの全体構成）

図１は、本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットを携帯電話機等の光学機器に搭載した様子を模式的に示す説明図である。図２は、本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニットの外観等を示す斜視図であり、図２（ａ）、（ｂ）は、光学ユニットを被写体側からみたときの斜視図、および光学ユニットを被写体側と反対側からみたときの斜視図である。

## 【００２２】

図１に示す光学ユニット１００（振れ補正機能付き光学ユニット）は、カメラ付き携帯電話機等の光学機器１０００に用いられる薄型カメラであって、光学機器１０００のシャーシ１１００（機器本体）に支持された状態で搭載される。かかる光学ユニット１００では、撮影時に光学機器１０００に手振れ等の振れが発生すると、撮像画像に乱れが発生する。そこで、本形態の光学ユニット１００には、後述するように、撮像ユニット１からなる可動モジュールを固定体２００内で揺動可能に支持するとともに、光学ユニット１００に搭載したジャイロスコープ（図示せず）、あるいは光学機器１０００の本体側に搭載したジャイロスコープ（図示せず）等の振れ検出センサによって手振れを検出した結果に基づいて、撮像ユニット１を揺動させる振れ補正用駆動機構（図１では図示せず）が設けられている。

## 【００２３】

図１および図２に示すように、光学ユニット１００には、撮像ユニット１や振れ補正用駆動機構への給電等を行うためのフレキシブル配線基板４１０、４２０が引き出されており、かかるフレキシブル配線基板４１０、４２０は、共通のコネクタ４９０等を介して光学機器１０００の本体側に設けられた上位の制御部等に電気的に接続されている。また、フレキシブル配線基板４１０は、撮像ユニット１から信号を出力する機能も担っている。このため、フレキシブル配線基板４１０は、配線数が多いので、フレキシブル配線基板４１０としては、比較的幅広のものが使用されている。

## 【００２４】

## （撮像ユニット１の構成）

図３は、本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニット１００に搭載されている撮像ユニット１の構成を模式的に示す断面図である。図４は、本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニット１００に搭載されている撮像ユニット１の分解斜視図である。

## 【００２５】

図３および図４に示すように、撮像ユニット１は、例えば、光学素子としての複数枚のレンズ１ａ（図１参照）を光軸Ｌ方向に沿って被写体（物体側）に近づくＡ方向（前側）、および被写体とは反対側（撮像素子側／像側）に近づくＢ方向（後側）の双方向に移動させる光学素子ユニットであり、略直方体形状を有している。撮像ユニット１は、概ね、複数枚のレンズ１ａ（図１参照）および固定絞り等の光学素子を内側に保持した移動体３と、この移動体３を光軸Ｌ方向に沿って移動させるレンズ駆動機構５と、レンズ駆動機構５および移動体３等が搭載された支持体２とを有している。移動体３は、レンズ１ａおよび固定絞り（図示せず）を保持する円筒状のレンズホルダ１２と、レンズホルダ１２を内側に保持するコイルホルダ１３とを備えており、コイルホルダ１３の外周側面には、レンズ駆動機構５を構成するレンズ駆動用コイル３０ｓ、３０ｔが保持されている。

## 【００２６】

支持体２は、被写体側（－Ｚ側）とは反対側で、後述するバネを保持するバネホルダ１９と、バネホルダ１９に対して被写体側（－Ｚ側）とは反対側で基板１５を位置決めする矩形板状の基板ホルダ１６と、バネホルダ１９に対して被写体側で被さる箱状のケース１８と、ケース１８の内側に配置される矩形板状のスペーサー１１とを備えており、基板１５において被写体側に向く基板面１５２には撮像素子１ｂが実装されている。また、バネホルダ１９には、赤外線フィルタ等のフィルタ１ｃが保持されている。スペーサー１１お

10

20

30

40

50

よびケース 18 の中央には、被写体からの光をレンズ 1 a に取り込むための入射窓 11 a、18 a が各々形成されている。また、基板ホルダ 16 およびバネホルダ 19 の中央には、入射光を撮像素子 1 b に導く窓 16 a、19 a が形成されている。

【0027】

ケース 18 は、鋼板等の強磁性板からなり、ヨークとしても機能する。このため、ケース 18 は、後述するレンズ駆動用マグネット 17 とともに、レンズ駆動用コイル 30 s、30 t に鎖交する磁界を発生させる鎖交磁界発生体を構成しており、かかる鎖交磁界発生体は、コイルホルダ 13 の外周面に巻回されたレンズ駆動用コイル 30 s、30 t とともにレンズ駆動機構 5 を構成している。

【0028】

支持体 2 と移動体 3 とは、光軸方向で離間する位置に設けられた金属製のバネ部材 14 s と、バネ部材 14 t とを介して接続されている。本形態では、撮像素子 1 b の側にはバネ部材 14 s が用いられ、被写体の側にはバネ部材 14 t が用いられている。バネ部材 14 s、14 t は基本的な構成が同様であり、支持体 2 側に保持される外周側連結部 141 と、移動体 3 の側に保持される円環状の内周側連結部 142 と、外周側連結部 141 と内周側連結部 142 とを接続する細幅のアーム部 143 とを備えている。撮像素子 1 b 側のバネ部材 14 s は、バネホルダ 19 に外周側連結部 141 が保持され、内周側連結部 142 が移動体 3 のコイルホルダ 13 の撮像素子側端部に連結されている。かかるバネ部材 14 s において、アーム部 143 は、周方向に円弧状に延在している。被写体側のバネ部材 14 t は、スペーサー 11 に外周側連結部 141 が保持され、内周側連結部 142 が移動体 3 のコイルホルダ 13 の被写体側端部に連結されている。かかるバネ部材 14 t において、アーム部 143 は、径方向において蛇行しながら周方向に円弧状に延在している。このような構成により、移動体 3 は、バネ部材 14 s、14 t を介して支持体 2 に光軸の方向に移動可能に支持されている。バネ部材 14 s、14 t はいずれも、ベリリウム銅や非磁性の S U S 系鋼材等といった非磁性の金属製であり、所定厚の薄板に対するプレス加工、あるいはフォトリソグラフィ技術を用いたエッチング加工により形成したものである。バネ部材 14 s は、2 つのバネ片に 2 分割されており、レンズ駆動用コイル 30 s、30 t の各端末は各々、バネ片に接続される。また、バネ部材 14 s において、2 つのバネ片には各々、端子 14 a、14 b が接続されており、バネ部材 14 s はレンズ駆動用コイル 30 s、30 t に対する給電部材としても機能する。

【0029】

コイルホルダ 13 の被写体側端部にはリング状の磁性片 61 が保持されており、かかる磁性片 61 の位置は、レンズ駆動用マグネット 17 に対して被写体側の位置である。このため、磁性片 61 は、レンズ駆動用マグネット 17 との間に作用する吸引力により移動体 3 に対して光軸 L の方向の付勢力を印加する。このため、非通電時（原点位置）においてはレンズ駆動用マグネット 17 と磁性片 61 との吸引力によってレンズホルダ 12 を撮像素子 1 b 側に静置することができる。また、磁性片 61 は、一種のヨークとして作用し、レンズ駆動用マグネット 17 とレンズ駆動用コイル 30 s、30 t との間に構成される磁路からの漏れ磁束を少なくすることができる。磁性片 61 としては、棒状あるいは球状の磁性体を用いられることもある。磁性片 61 をリング形状にすれば、レンズホルダ 12 が光軸方向に移動する際にレンズ駆動用マグネット 17 と引き合う吸引力が等方的になるという効果がある。さらに、レンズ駆動用コイル 30 s、30 t に対する通電時、磁性片 61 はレンズ駆動用マグネット 17 から離間する方向に移動するので、撮像素子 1 b 側にレンズホルダ 12 を押し付けるような余計な力は働かない。そのため、少ない電力でレンズホルダ 12 を光軸方向に移動させることができる。

【0030】

本形態の撮像ユニット 1 において、光軸 L の方向からみたとき、レンズ 1 a（図 1 参照）は円形であるが、支持体 2 に用いたケース 18 は矩形箱状である。従って、ケース 18 は、角筒状胴部 18 c を備えており、角筒状胴部 18 c の上面側には、入射窓 18 a が形成された上板部 18 b を備えている。角筒状胴部 18 c の内側において、四角形の角に相

10

20

30

40

50



当する側面部にはレンズ駆動用マグネット１７が固着されており、かかるレンズ駆動用マグネット１７は各々、三角柱状の永久磁石からなる。４つのレンズ駆動用マグネット１７はいずれも光軸の方向において２分割されており、いずれにおいても内面と外面とが異なる極に着磁されている。このため、コイルホルダ１３の周りにおいて、２つのレンズ駆動用コイル３０ｓ、３０ｔにおける巻回方向は反対である。このように構成した移動体３は、ケース１８の内側に配置される。その結果、レンズ駆動用コイル３０ｓ、３０ｔは各々、ケース１８の角筒状胴部１８ｃの内面に固着されたレンズ駆動用マグネット１７に対向して、レンズ駆動機構５を構成することになる。

#### 【００３１】

このように構成した撮像ユニット１において、移動体３は、通常は撮像素子側（Ｚ軸方向の一方側）に位置しており、このような状態において、レンズ駆動用コイル３０ｓ、３０ｔに所定方向の電流を流すと、レンズ駆動用コイル３０ｓ、３０ｔは、それぞれ被写体側（Ｚ軸方向の他方側）に向かう電磁力を受けることになる。これにより、レンズ駆動用コイル３０ｓ、３０ｔが固着された移動体３は、被写体側（前側）に移動し始めることになる。このとき、バネ部材１４ｔと移動体３の前端との間、およびバネ部材１４ｓと移動体３の後端との間には、移動体３の移動を規制する弾性力が発生する。このため、移動体３を前側に移動させようとする電磁力と、移動体３の移動を規制する弾性力とが釣り合ったとき、移動体３は停止する。その際、バネ部材１４ｓ、１４ｔによって移動体３に働く弾性力に応じて、レンズ駆動用コイル３０ｓ、３０ｔに流す電流量を調整することで、移動体３を所望の位置に停止させることができる。

#### 【００３２】

（光学ユニット１００の構成）

図５は、本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニット１００の内部構造を示す断面図であり、図５（ａ）、（ｂ）は、光学ユニット１００のＹＺ断面図、および光学ユニット１００のＸＺ断面図である。なお、図５では、撮像ユニット１についてはケース１８、基板ホルダ１６および基板１５のみを図示し、その他の部材について図示を省略してある。図６は、本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニット１００を被写体側からみたときの分解斜視図であり、図７は、本発明の実施の形態１に係る振れ補正機能付きの光学ユニット１００を被写体側とは反対側からみたときの分解斜視図である。

#### 【００３３】

図５、図６および図７において、光学ユニット１００は、まず、固定体２００と、撮像ユニット１と、撮像ユニット１が固定体２００に変位可能に支持された状態とするバネ部材６００と、撮像ユニット１と固定体２００との間で撮像ユニット１を固定体２００に対して相対変位させる磁気駆動力を発生させる振れ補正用駆動機構５００とを有している。撮像ユニット１の外周部分は、撮像ユニット１において支持体２に用いたケース１８（図４参照）からなる。

#### 【００３４】

固定体２００は上カバー２５０、スペーサー２８０および下カバー７００を備えており、上カバー２５０は、撮像ユニット１の周りを囲む角筒状胴部２１０と、角筒状胴部２１０の被写体側の開口部を塞ぐ端板部２２０とを備えている。端板部２２０には、被写体からの光が入射する窓２２０ａが形成されている。上カバー２５０において、角筒状胴部２１０は、被写体側（光軸Ｌが延在している側）とは反対側（＋Ｚ側）の端部が開放端になっている。また、角筒状胴部２１０において、Ｙ軸方向で対向する２つ個所には切り欠き２１９が形成されており、かかる２つの切り欠き２１９のうち、Ｙ軸方向の一方側＋Ｙの切り欠き２１９は、フレキシブル配線基板４２０を、後述するシート状コイル５５０の端子部と接続する際に利用される。また、角筒状胴部２１０の４面には、後述するスペーサー２８０との係合に利用される切り欠き２１８が形成されており、切り欠き２１８のうち、Ｙ軸方向に位置する２つの切り欠き２１８は、切り欠き２１９と繋がって一体の切り欠きを構成している。また、角筒状胴部２１０において、Ｙ軸方向で対向する２つ個所の下

端側には切り欠き 2 1 8 と繋がった切り欠き 2 1 7 が形成されており、かかる 2 つの切り欠き 2 1 7 のうち、Y 軸方向の一方側 + Y の切り欠き 2 1 7 は、フレキシブル配線基板 4 1 0 を外部に引き出すのに利用される。

【 0 0 3 5 】

スペーサー 2 8 0 は、上カバー 2 5 0 の角筒状胴部 2 1 0 と下カバー 7 0 0 との間に挟持される四角形の枠部 2 8 1 と、枠部 2 8 1 の角部分から被写体側に向けて突出した柱状部 2 8 3 と、枠部 2 8 1 の辺部分で外側に向けて小さく突出する係合突部 2 8 5 とを備えている。スペーサー 2 8 0 に対して上カバー 2 5 0 を被せた際、上カバー 2 5 0 の角筒状胴部 2 1 0 において四角形状に切り欠かれた切り欠き 2 1 8 に係合突部 2 8 5 が係合して、スペーサー 2 8 0 と上カバー 2 5 0 との位置決めが行われる。

10

【 0 0 3 6 】

下カバー 7 0 0 は、金属板に対するプレス加工品であり、略矩形の底板部 7 1 0 と、底板部 7 1 0 の外周縁から被写体側に向けて起立する 4 つの側板部 7 2 0 とを備えている。かかる下カバー 7 0 0 に対してスペーサー 2 8 0 および上カバー 2 5 0 を重ねた際、側板部 7 2 0 は、上カバー 2 5 0 の角筒状胴部 2 1 0 との間にスペーサー 2 8 0 の枠部 2 8 1 を挟持する。

【 0 0 3 7 】

下カバー 7 0 0 の側板部 7 2 0 のうち、Y 軸方向の一方側 + Y に位置する側板部 7 2 0 には、切り欠き 7 2 8 が形成されているとともに、かかる切り欠き 7 2 8 の中央部には、側板部 7 2 0 の一部が板状突起 7 2 9 として残されている。また、側板部 7 2 0 のうち、Y 軸方向の他方側 - Y に位置する側板部 7 2 0 にも窓状の切り欠き 7 2 6 が形成されているとともに、かかる切り欠き 7 2 6 の中央部には、側板部 7 2 0 の一部が残部 7 2 7 として残されている。かかる切り欠き 7 2 6、7 2 8 のうち、切り欠き 7 2 8 は、後述するように、フレキシブル配線基板 4 1 0 を外部に引き出すのに利用され、切り欠き 7 2 6 は、折り返し部分 4 1 3 が下カバー 7 0 0 の側板部 7 2 0 と干渉するのを防止するのに利用される。

20

【 0 0 3 8 】

下カバー 7 0 0 の底板部 7 1 0 にはその中央位置に穴 7 1 1 が形成されているとともに、穴 7 1 1 に対して X 軸方向の他方側 - X で隣接する位置、および穴 7 1 1 に対して Y 軸方向の他方側で隣接する位置には、矩形形状に凹んだ凹部 7 1 6、7 1 7 が形成されている。後述するように、凹部 7 1 6、7 1 7 の底部 7 1 6 a、7 1 7 a の内面は略鏡面になっており、底部 7 1 6 a、7 1 7 a は、基板 1 5 において被写体側とは反対側の基板面 1 5 1 に実装された第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 および第 2 フォトリフレクタ 5 9 0 に対する反射面として利用される。

30

【 0 0 3 9 】

かかる下カバー 7 0 0 は、熱処理により非磁性化した金属部品からなる。より具体的には、下カバー 7 0 0 は SUS 3 0 4 等の金属材料を所定形状に曲げ加工や絞り加工等を行なった金属部品からなる。ここで、SUS 3 0 4 等に曲げ加工や絞り加工等を行なうと、オーステナイトの一部がマルテンサイトに移行し磁性をもつが、本形態では、曲げ加工や絞り加工等の後、熱処理を行なって下カバー 7 0 0 を得ている。このため、光学ユニット 1 0 0 を組み立てる際、永久磁石 5 2 0 と下カバー 7 0 0 との吸着等を防止することができる。また、SUS 3 0 4 等の金属材料に熱処理を行うと、反射率が高くなるので、下カバー 7 0 0 は、第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 および第 2 フォトリフレクタ 5 9 0 に対する反射面として利用するのに十分な反射率を備えている。

40

【 0 0 4 0 】

( 揺動支点の構成 )

撮像ユニット 1 に対して Z 軸の一方側 + Z ( 被写体側とは反対側 ) では、撮像ユニット 1 と固定体 2 0 0 の下カバー 7 0 0 との間に、撮像ユニット 1 を揺動させる際の揺動支点 1 8 0 が設けられており、撮像ユニット 1 は、バネ部材 6 0 0 によって揺動支点 1 8 0 を介して下カバー 7 0 0 に向けて付勢されている。本形態において、揺動支点 1 8 0 は、下

50

カバー 700 の底板部 710 に形成された穴 711 に位置決めされた鋼球 181 と、基板 15 の基板面 151 に固着された支持板 183 とによって構成されており、撮像ユニット 1 は、鋼球 181 と支持板 183 との接触位置を揺動中心にして揺動可能である。

#### 【0041】

(バネ部材 600 の構成)

バネ部材 600 は、固定体 200 において下カバー 700 の側板部 720 とスペーサー 280 の枠部 281 との間に挟持される固定側連結部 620 と、撮像ユニット 1 に連結される可動側連結部 610 と、可動側連結部 610 と固定側連結部 620 の間で延在する複数本のアーム部 630 とを備えた板状バネ部材であり、アーム部 630 の両端は各々、可動側連結部 610 および固定側連結部 620 に繋がっている。本形態において、バネ部材 600 の可動側連結部 610 は、撮像ユニット 1 の後端側において基板ホルダ 16 の外周側に形成された段部 168 に固着されている。かかるバネ部材 600 は、ベリリウム銅や非磁性の SUS 系鋼材等といった非磁性の金属製であり、所定厚の薄板に対するプレス加工、あるいはフォトリソグラフィ技術を用いたエッチング加工により形成したものである。

10

#### 【0042】

ここで、バネ部材 600 の固定側連結部 620 を固定体 200 において下カバー 700 の側板部 720 とスペーサー 280 の枠部 281 との間に挟持した状態で、鋼球 181 より被写体側に撮像ユニット 1 を配置すると、撮像ユニット 1 は鋼球 181 によって被写体側に押し上げられた状態となる。このため、バネ部材 600 において、可動側連結部 610 は固定側連結部 620 よりも被写体側に押し上げられた状態となり、バネ部材 600 のアーム部 630 は、撮像ユニット 1 を被写体側とは反対側に付勢する。従って、撮像ユニット 1 は、バネ部材 600 によって揺動支点 180 を介して下カバー 700 の底板部 710 に向けて付勢された状態になり、撮像ユニット 1 は、揺動支点 180 によって揺動可能な状態に固定体 200 に支持された状態となる。

20

#### 【0043】

(振れ補正用駆動機構の構成)

図 5 ~ 図 7 に示すように、本形態の光学ユニット 100 では、コイル部 560 と、コイル部 560 に鎖交する磁界を発生させる永久磁石 520 とによって、振れ補正用駆動機構 500 が構成されている。より具体的には、撮像ユニット 1 においてケース 18 の角筒状胴部 18c の 4 つの外周面 18e、18f、18g、18h には平板状の永久磁石 520 が各々固定されており、上カバー 250 の角筒状胴部 210 の内面 211、212、213、214 にはコイル部 560 が配置されている。永久磁石 520 は、外周側および内周側に異なる極に着磁されている。また、永久磁石 520 は、光軸 L 方向に配置された 2 つの磁石片からなり、かかる磁石片は、コイル部 560 と対向する側の面が異なる極に着磁されている。また、コイル部 560 は、四角形の枠状に形成されており、上下の長辺部分が有効辺として利用される。

30

#### 【0044】

これらの永久磁石 520 およびコイル部 560 のうち、撮像ユニット 1 を Y 軸方向の両側で挟む 2 箇所に配置された永久磁石 520 およびコイル部 560 は Y 側振れ補正用駆動機構 500 y を構成しており、図 5 (a) に矢印 X1、X2 で示すように、揺動支点 180 を通って X 軸方向に延在する軸線 X0 を中心にして撮像ユニット 1 を揺動させる。また、撮像ユニット 1 を X 軸方向の両側で挟む 2 箇所に配置された永久磁石 520 およびコイル部 560 は X 側振れ補正用駆動機構 500 x を構成しており、図 5 (b) に矢印 Y1、Y2 で示すように、揺動支点 180 を通って Y 軸方向に延在する軸線 Y0 を中心にして撮像ユニット 1 を揺動させる。

40

#### 【0045】

かかる Y 側振れ補正用駆動機構 500 y および X 側振れ補正用駆動機構 500 x を構成するにあたって、本形態では、上カバー 250 の 4 つの内面 211、212、213、214 に沿って延在するシート状コイル 550 が用いられており、シート状コイル 550 で

50

は、４つのコイル部５６０が所定の間隔を空けて一体に形成されている。また、シート状コイル５５０は展開したときの帯状に延在する形状を備えており、上カバー２５０の４つの内面２１１、２１２、２１３、２１４に沿うように折り曲げた状態で上カバー２５０の内面２１１～２１４に面接着等の方法で固定されている。この状態で、シート状コイル５５０の両端部５５１、５５２はスリット５５５を介して近接することになる。

#### 【００４６】

かかるシート状コイル５５０は、導電配線技術を利用して微細な銅配線からなるコイル部５６０をプリント基板上に形成した構造を有しており、複数層の銅配線（コイル部５６０）が絶縁膜を介して多層に形成されている。また、銅配線（コイル部５６０）の表面も絶縁膜で覆われている。かかるシート状コイル５５０としては、例えば、旭化成エレクトロニクス株式会社製のＦＰコイル（ファインパターンコイル（登録商標））を挙げることができる。

#### 【００４７】

本形態では、シート状コイル５５０の一方の端部５５１には、被写体側とは反対側に矩形に突出した突部５５３が形成されており、かかる突部５５３には、４つのコイル部５６０から延在する導電層によって複数の端子部５６５が形成されている。本形態において、端子部５６５は、シート状コイル５５０において永久磁石５２０と対向する内側とは反対側の外側に向いている。また、図２、図６および図７に示すように、上カバー２５０において端子部５６５と重なる部分は、切り欠き２１９が形成されている。このため、シート状コイル５５０の端子部５６５（突部５５３）は外面に露出しているので、かかる切り欠き２１９において、シート状コイル５５０と、フレキシブル配線基板４２０において光軸Ｌの方向に向けて折り曲げられた端部４２５とはハンダ等により電氣的に接続されている。

#### 【００４８】

このように構成した光学ユニット１００において、撮像ユニット１は、揺動支点１８０によって揺動可能な状態に固定体２００に支持された状態にある。従って、外部から大きな力が加わって撮像ユニット１が大きく揺動すると、バネ部材６００のアーム部６３０が塑性変形するおそれがある。ここで、シート状コイル５５０と永久磁石５２０とは狭い隙間を介して対向している。また、シート状コイル５５０の場合、空芯コイルと違って、永久磁石５２０と当接しても巻線が解けることがない。そこで、本形態の光学ユニット１００では、シート状コイル５５０と永久磁石５２０との当接によって、撮像ユニット１の光軸Ｌと交差するＸ軸方向およびＹ軸方向の可動範囲が規制されており、撮像ユニット１の揺動を阻止するストッパ機構が他に設けられていない。

#### 【００４９】

また、本形態では、シート状コイル５５０が用いられているため、単体の空芯コイルを用いた場合に比して、撮像ユニット１と固定体２００との間隔を狭めることができるので、光学ユニット１００のサイズを小さくすることができる。また、シート状コイル５５０の場合、複数のコイル部５６０が端子部５６５と一体に設けられているため、光軸Ｌ周りの複数個所にコイル部５６０を配置する場合でも、シート状コイル５５０を光軸Ｌ周りに延在させればよい。従って、単体の空芯コイルを用いた場合と違って、光軸Ｌ周りの複数個所の各々に単体の空芯コイルを配置する必要がないとともに、複数の単体の空芯コイルの各々に電氣的な接続を行なう必要がないので、本形態によれば、組立工数が少なく済む。また、シート状コイル５５０において、端子部５６５は、永久磁石５２０と対向する側とは反対側の外側に向いているため、コイル部５６０に対する電氣的接続、すなわち、端子部５６５へのフレキシブル配線基板４２０の接続を容易に行なうことができる。

#### 【００５０】

##### （振れ補正動作）

本形態の光学ユニット１００において、図１に示す光学機器１０００が振れると、かかる振れはジャイロ스코プによって検出されるとともに、上位の制御部では、ジャイロスコプでの検出に基づいて、振れ補正用駆動機構５００を制御する。すなわち、ジャイロ

10

20

30

40

50

スコープで検出した振れを打ち消すような駆動電流をフレキシブル配線基板 4 1 0 およびフレキシブル配線基板 4 2 0 を介してシート状コイル 5 5 0 のコイル部 5 6 0 に供給する。その結果、X 側振れ補正用駆動機構 5 0 0 x は、揺動支点 1 8 0 を中心に撮像ユニット 1 を Y 軸周りに揺動させる。また、Y 側振れ補正用駆動機構 5 0 0 y は、揺動支点 1 8 0 を中心に撮像ユニット 1 を X 軸周りに揺動させる。また、撮像ユニット 1 の X 軸周りの揺動、および Y 軸周りの揺動を合成すれば、X Y 面全体に対して撮像ユニット 1 を変位させることができる。それ故、光学ユニット 1 0 0 で想定される全ての振れを確実に補正することができる。かかる撮像ユニット 1 に対する駆動の際、撮像ユニット 1 の変位は、図 8 および図 9 を参照して後述するように、第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 および第 2 フォトリフレクタ 5 9 0 によって監視される。

10

#### 【 0 0 5 1 】

(フレキシブル配線基板 4 1 0 の構成)

本形態の光学ユニット 1 0 0 において、撮像ユニット 1 の基板 1 5 には、フレキシブル配線基板 4 1 0 の一方の端部が接続されており、撮像ユニット 1 を揺動させた際にフレキシブル配線基板 4 1 0 が撮像ユニット 1 に負荷を印加すると、撮像ユニット 1 を適正に揺動させるのに支障がある。

#### 【 0 0 5 2 】

そこで、フレキシブル配線基板 4 1 0 は、光学ユニット 1 0 0 の外部に位置する本体部分 4 1 5 は、コネクタ 4 9 0 の搭載やフレキシブル配線基板 4 2 0 の接続が可能な広幅になっているが、光学ユニット 1 0 0 の内側に位置する部分は、本体部分 4 1 5 より幅寸法の狭い帯状部分 4 1 1 になっている。また、帯状部分 4 1 1 は、Y 軸方向の一方側 + Y から他方側 - Y に向けて延在した後、一方側 + Y に向けて折り返され、その後、端部が基板 1 5 の縁に沿って基板 1 5 の被写体側の基板面に向けて折り返されて固定されている。このため、フレキシブル配線基板 4 1 0 は、外部の本体部分 4 1 5 から基板 1 5 に固定にされている部分までの間に折り返し部分 4 1 3 が設けられている分、寸法が長い。従って、フレキシブル配線基板 4 1 0 の帯状部分は、撮像ユニット 1 の振れにスムーズに追従するので、大きな負荷を撮像ユニット 1 に印加することがない。

20

#### 【 0 0 5 3 】

また、フレキシブル配線基板 4 1 0 の帯状部分 4 1 1 は、長さ方向の途中部分に、帯状部分 4 1 1 の延在方向 (Y 軸方向) に沿って延在するスリット 4 1 8 が形成されており、帯状部分 4 1 1 の途中部分は、幅方向において細幅部分 4 1 6、4 1 7 に 2 分割されている。このため、帯状部分 4 1 1 の剛性が緩和されている。従って、フレキシブル配線基板 4 1 0 の帯状部分は、撮像ユニット 1 の振れにスムーズに追従するので、大きな負荷を撮像ユニット 1 に印加することがない。

30

#### 【 0 0 5 4 】

ここで、フレキシブル配線基板 4 2 0 の帯状部分 4 1 1 は撮像ユニット 1 に対して光軸 L 方向で重なっているが、揺動支点 1 8 0 と重なる部分は、スリット 4 1 8 に繋がる円形の穴 4 1 4 になっている。このため、フレキシブル配線基板 4 2 0 の帯状部分 4 1 1 を撮像ユニット 1 に対して光軸 L 方向で重なる位置に配置しても、揺動支点 1 8 0 を設けるのに支障がない。

40

#### 【 0 0 5 5 】

また、下カバー 7 0 0 の側板部 7 2 0 のうち、Y 軸方向の一方側 + Y に位置する側板部 7 2 0 には、フレキシブル配線基板 4 2 0 の帯状部分 4 1 1 を引き出す切り欠き 7 2 8 が形成され、かかる切り欠き 7 2 8 の中央部には、側板部 7 2 0 の一部が板状突起 7 2 9 として残されている。但し、フレキシブル配線基板 4 2 0 の帯状部分 4 1 1 において、板状突起 7 2 9 と重なる部分には楕円形の穴 4 1 9 が形成されている。このため、フレキシブル配線基板 4 2 0 の帯状部分 4 1 1 を側板部 7 2 0 の切り欠き 7 2 8 から外部に引き出す際、穴 4 1 9 に板状突起 7 2 9 を通すことができるので、フレキシブル配線基板 4 2 0 の帯状部分 4 1 1 を外部に引き出すのに支障がない。また、穴 4 1 9 に板状突起 7 2 9 を嵌めるので、フレキシブル配線基板 4 2 0 の帯状部分 4 1 1 の位置決めを行うことができる。

50

## 【 0 0 5 6 】

さらに、下カバー 7 0 0 の側板部 7 2 0 のうち、Y 軸方向の他方側 - Y に位置する側板部 7 2 0 には窓状の切り欠き 7 2 6 が形成されている。このため、フレキシブル配線基板 4 1 0 の折り返し部分 4 1 3 が側板部 7 2 0 の近傍に位置する場合でも、折り返し部分 4 1 3 と側板部 7 2 0 とが干渉することがない。それ故、撮像ユニット 1 が揺動した際、折り返し部分 4 1 3 と側板部 7 2 0 との干渉に起因する余計な負荷が撮像ユニット 1 に印加されることがない。

## 【 0 0 5 7 】

さらにまた、フレキシブル配線基板 4 1 0 の折り返し部分 4 1 3 は、揺動支点 1 8 0 における撮像ユニット 1 の揺動中心（鋼球 1 8 1 と支持板 1 8 3 との接触位置）と同一の高さ位置にある。このため、撮像ユニット 1 が揺動した際の帯状部分 4 1 1 の変位を小さく抑えることができる。従って、フレキシブル配線基板 4 1 0 が撮像ユニット 1 に及ぼす影響を低減することができるので、撮像ユニット 1 を精度よく揺動させることができる。

## 【 0 0 5 8 】

（フォトリフレクタの構成）

図 8 は、本発明の実施の形態 1 に係る振れ補正機能付きの光学ユニット 1 0 0 に設けたフォトリフレクタの説明図であり、図 8 ( a )、( b ) は、光学ユニット 1 0 0 において被写体側とは反対側部分の分解斜視図、およびフォトリフレクタと反射面との位置関係を示す説明図である。図 9 は、本発明の実施の形態 1 に係る振れ補正機能付きの光学ユニット 1 0 0 におけるフォトリフレクタとフレキシブル配線基板等との位置関係を示す説明図であり、図 9 ( a )、( b )、( c ) は、下カバー 7 0 0 の反射部と揺動支点との位置関係を示す底面図、フレキシブル配線基板 4 1 0 の帯状部分 4 1 1 とフォトリフレクタ（第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 および第 2 フォトリフレクタ 5 9 0 ）との位置関係を示す底面図、およびフォトリフレクタと揺動支点との位置関係を示す底面図である。図 1 0 は、本発明の実施の形態 1 に係る振れ補正機能付きの光学ユニット 1 0 0 における 2 つのフォトリフレクタのレイアウトを示す説明図である。なお、図 9 において、フォトリフレクタの発光中心および受光中心については小さな丸で示し、図 1 0 において、フォトリフレクタの発光中心および受光中心については「+」で示してある。

## 【 0 0 5 9 】

図 5 ~ 図 9 に示すように、本形態の振れ補正機能付きの光学ユニット 1 0 0 では、撮像ユニット 1 の底部を構成する基板 1 5 と、固定体 2 0 0 の下カバー 7 0 0 との間には、揺動支点 1 8 0 が構成されているとともに、基板 1 5 において下カバー 7 0 0 と対向する基板面 1 5 1 には第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 および第 2 フォトリフレクタ 5 9 0 が実装されている。また、下カバー 7 0 0 の底板部 7 1 0 には、2 つの凹部 7 1 6、7 1 7 が形成されており、かかる凹部 7 1 6、7 1 7 の底部 7 1 6 a、7 1 7 a の内面は、第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 および第 2 フォトリフレクタ 5 9 0 に対する第 1 反射部 7 1 6 c および第 2 反射部 7 1 7 c になっている。

## 【 0 0 6 0 】

図 9 および図 1 0 に示すように、第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 および第 2 フォトリフレクタ 5 9 0 はいずれも、光軸 L 方向から見たときに長方形の平面形状を有しており、図 1 0 に示すように、短辺 5 8 1、5 8 2、5 9 1、5 9 2 および長辺 5 8 3、5 8 4、5 9 3、5 9 4 を備えている。また、第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 および第 2 フォトリフレクタ 5 9 0 はいずれも、長手方向の一方側端部に発光部 5 8 6、5 9 6 を備え、長手方向の他方側端部に受光部 5 8 7、5 9 7 を備えている。また、第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 および第 2 フォトリフレクタ 5 9 0 では、発光部 5 8 6、5 9 6 と受光部 5 8 7、5 9 7 との間に遮光部 5 8 5、5 9 5 が形成されている。

## 【 0 0 6 1 】

本形態において、第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 は、図 5 ( b ) を参照して説明した軸線 X 0 に光軸 L 方向で重なる位置に配置されており、第 1 フォトリフレクタ 5 8 0 の発光中心および受光中心は、軸線 X 0 に線対称な位置に光軸 L と直交する方向で配置されている

。また、第2フォトリフレクタ590は、図5(a)を参照して説明した軸線Y0に光軸L方向で重なる位置に配置されており、第2フォトリフレクタ590の発光中心および受光中心は、軸線Y0に光軸L方向で重なっている。

#### 【0062】

また、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、長辺583、584、593、594がY軸方向に延在するように配置されており、フレキシブル配線基板410の帯状部分411の延在方向と平行である。従って、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、短辺581、582、591、592がフレキシブル配線基板410の幅方向に延在している。このため、第2フォトリフレクタ590は、フレキシブル配線基板410のスリット418と重なる位置に配置して、第2フォトリフレクタ590とフレキシブル配線基板410とが光軸L方向で重ならないように配置した場合でも、スリット418の幅寸法が狭く済む。また、フレキシブル配線基板410の帯状部分411において、細幅部分416の外縁部分に切り欠き416aを形成し、かかる切り欠き416a重なる位置に第1フォトリフレクタ580を配置して、第1フォトリフレクタ580とフレキシブル配線基板410とが光軸L方向で重ならないように配置した場合でも、切り欠き416aの幅寸法が狭く済む。それ故、撮像ユニット1の底部(基板15)と固定体200の下カバー700との間において、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590に対して光軸L方向で重なる位置を避けるようにフレキシブル配線基板410の帯状部分411をY軸方向に延在させた場合でも、帯状部分411の幅寸法が比較的、大である。

#### 【0063】

また、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、発光部586、596がY軸方向の一方側+Yに位置し、受光部587、597がY軸方向の他方側-Yに位置する向きに配置されている。

#### 【0064】

このように構成した第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590では、基板15と下カバー700の底板部710とが平行な状態においては、図8(b)に示すように、フォトリフレクタ580の発光部586から出射された光は、第1反射部716cで反射して第1フォトリフレクタ580の受光部587で高い強度で受光され、第2フォトリフレクタ590の発光部596から出射された光は、第2反射部717cで反射して第2フォトリフレクタ590の受光部597で高い強度で受光される。これに対して、基板15と下カバー700の底板部710とが非平行な状態においては、第1フォトリフレクタ580の受光部587での受光強度および第2フォトリフレクタ590の受光部597での受光強度が低下する。また、第1フォトリフレクタ580の受光部587での受光強度および第2フォトリフレクタ590の受光部597での受光強度は、撮像ユニット1の固定体200に対する傾きの方向によって変化する。従って、光学ユニット1において手振れを補正することを目的に撮像ユニット1を軸線X0、Y0周りに揺動させた際の撮像ユニット1の傾きを検出でき、かかる検出結果を用いれば、振れ補正用駆動機構500による撮像ユニット1の揺動を適正に行うことができる。

#### 【0065】

ここで、第1フォトリフレクタ580は軸線X0に光軸L方向で重なる位置に配置され、第2フォトリフレクタ590は軸線Y0に光軸L方向で重なる位置に配置されている。このため、第1フォトリフレクタ580での検出結果によれば、撮像ユニット1が軸線Y0周りに回転した際の撮像ユニット1のX軸方向への変位を監視することができる。また、第2フォトリフレクタ590での検出結果によれば、撮像ユニット1が軸線X0周りに回転した際の撮像ユニット1のY軸方向への変位を監視することができる。それ故、撮像ユニット1の軸線X0周りに回転した際の変位、および軸線Y0周りに回転した際の変位を独立して監視することができるので、撮像ユニット1の軸線X0周りの回転、および軸線Y0周りの回転を独立して制御することができる。

#### 【0066】

(本形態の主な効果)

以上説明したように、本形態の光学ユニット100では、可動モジュールとしての撮像ユニット1を揺動させる振れ補正用駆動機構500が設けられているため、光学ユニット100に手振れ等の振れが発生した際、かかる振れを相殺するように撮像ユニット1を揺動させることができる。このため、光学ユニット100が振れても光軸Lの傾きを補正することができる。

【0067】

また、撮像ユニット1が揺動する際の2つの軸線X0、Y0のうちの、軸線X0に光軸L方向で重なる位置に第1フォトリフレクタ580が設けられ、軸線Y0に光軸L方向で重なる位置で第2フォトリフレクタ590が設けられているため、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590によって、2つ軸線X0、Y0毎の撮像ユニット1の振れを各々独立して監視し、制御することができる。

10

【0068】

さらに、振れ補正用駆動機構500は、撮像ユニット1の外周面と固定体200(上カバー250)との間に設けられている一方、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、揺動支点180が設けられている撮像ユニット1の底部(基板15)と固定体200(下カバー700)との間を利用して設けられている。このため、撮像ユニット1に対してフォトリフレクタ(第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590)、揺動支点180、振れ補正用駆動機構500を設けた場合でも、光軸L方向および光軸方向に対して交差する方向(X軸方向およびY軸方向)のサイズの増大を抑えることができる。

20

【0069】

また、撮像ユニット1の底部と固定体200の間では、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590に対して光軸L方向で重なる位置を避けるようにフレキシブル配線基板410がY軸方向に延在しているが、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590における長辺583、584、593、594の延在方向と、フレキシブル配線基板410の延在方向とが平行である。このため、フレキシブル配線基板410の幅方向(X軸方向)で第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590が占める領域が狭いので、広い幅寸法をもってフレキシブル配線基板410を延在させることができる。それ故、帯状部分411に多数本の配線パターンを設けることができる。

30

【0070】

また、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、撮像ユニット1の底部に設けられている一方、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590に対する第1反射部716cおよび第2反射部717cは、撮像ユニット1の底部に対向する下カバー700の底板部710に設けた凹部716、717の内底面からなる。かかる構成によれば、第1反射部716cおよび第2反射部717cは、周りに位置する部分より撮像ユニット1の底部から離間する方向に凹んでいる。このため、第1フォトリフレクタ580と第1反射部716cとの間、および第2フォトリフレクタ590と第2反射部717cとの間に十分な距離を確保する必要がある場合でも、下カバー700には撮像ユニット1の底部に近接する部分を設けることができ、かかる近接部分に揺動支点180を設けることができる。従って、揺動支点180が占有する領域が狭く済む。すなわち、下カバー700と撮像ユニット1の底部とが近接していれば、鋼球181として小径のものをを用いることができ、揺動支点180が占有する領域が狭く済む。それ故、撮像ユニット1の底部と下カバー700との間に第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590を配置するスペースを確保することができる。なお、揺動支点180を構成するにあたって、鋼球181に代えて突起を利用した場合でも、下カバー700と撮像ユニット1の底部とが近接していれば、突起の高さ寸法を小さくできる分、突起が占有する領域が狭く済む。それ故、撮像ユニット1の底部と下カバー700との間に第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590を配置するスペースを確保

40

50



することができる。

【0071】

また、下カバー700は、SUS304等の金属材料を所定形状に曲げ加工や絞り加工等を行なった金属部品からなるが、熱処理が加えられて非磁性になっている。このため、光学ユニット100を組み立てる際、永久磁石520と下カバー700との吸着等を防止することができる。また、SUS304等の金属材料に熱処理を行うと、反射率が高くなるので、下カバー700は、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590に対する反射面として利用するのに十分な反射率を備えている。それ故、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590に対する第1反射部716cおよび第2反射部717cを設けるにあたって、下カバー700に反射テープを貼付する必要がないという利点がある。

10

【0072】

さらに、撮像ユニット1の底部は、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590が基板面151に実装された基板15からなり、かかる基板15において反対側の基板面152には撮像素子1bが実装されている。このため、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590を撮像素子1bと同一の基板15に実装することができるので、部品点数を削減することができる。

【0073】

[実施の形態2]

図11は、本発明の実施の形態2に係る振れ補正機能付きの光学ユニット100における2つのフォトリフレクタのレイアウト等を示す説明図である。なお、本形態の基本的な構成は実施の形態1と同様であるため、共通する部分には同一の符号を付して図示し、それらの説明を省略する。図11に示すように、本形態の振れ補正機能付きの光学ユニット100でも、実施の形態1と同様、第1フォトリフレクタ580は、軸線X0に光軸L方向で重なる位置に配置されており、第2フォトリフレクタ590は、軸線Y0に光軸L方向で重なる位置に配置されている。また、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、長辺583、584、593、594がY軸方向に延在するように配置されており、図6～図9を参照して説明したように、フレキシブル配線基板410の帯状部分411の延在方向と平行である。また、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、発光部586、596がY軸方向の一方側+Yに位置し、受光部587、597がY軸方向の他方側-Yに位置する向きに配置されている。

20

30

【0074】

このように構成した第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590においては、第2フォトリフレクタ590の発光部596から出射された光が第1フォトリフレクタ580と第2フォトリフレクタ590との間の空間を通過して第1フォトリフレクタ580に入射することがある。また、基板15がガラス・エポキシ基板のように透光性を有している場合には、第2フォトリフレクタ590の発光部596から出射された光が、基板15を介して第1フォトリフレクタ580に入射することがある。

【0075】

そこで、本形態では、第1フォトリフレクタ580において光軸L方向と交差する方向に向く4つの側面部のうち、第2フォトリフレクタ590が位置する側に向く2つの側面には遮光層588、589が設けられ、第2フォトリフレクタ590において光軸L方向と交差する方向に向く4つの側面部のうち、第1フォトリフレクタ580が位置する側に向く2つの側面には遮光層598、599が設けられている。より具体的には、第1フォトリフレクタ580において、第2フォトリフレクタ590が位置する側に向く短辺582および長辺583に相当する側面に遮光層588、589が設けられ、第2フォトリフレクタ590において、第1フォトリフレクタ580が位置する側に向く短辺591および長辺594に相当する側面に遮光層598、599が設けられている。このため、第2フォトリフレクタ590の発光部596から出射された光が第1フォトリフレクタ580の受光部587に入射することがない。

40

50

## 【0076】

なお、第1フォトリフレクタ580の発光部586と第2フォトリフレクタ590の受光部597との離間距離は、第1フォトリフレクタ580の受光部587と第2フォトリフレクタ590の発光部596との離間距離に比して長いため、第1フォトリフレクタ580の発光部586から出射された光が第2フォトリフレクタ590の受光部597に入射する可能性は低い。但し、本形態では、第1フォトリフレクタ580において第2フォトリフレクタ590が位置する側に向く2つの側面全体に遮光層588、589が形成され、第2フォトリフレクタ590において第1フォトリフレクタ580が位置する側に向く2つの側面全体に遮光層598、599が設けられているため、第1フォトリフレクタ580の発光部586から出射された光が第2フォトリフレクタ590の受光部597に入射することも確実に防止することができる。

10

## 【0077】

それ故、本形態によれば、第1フォトリフレクタ580と第2フォトリフレクタ590との間においてクロストークが発生しないので、撮像ユニット1の軸線X0周りに回転した際の変位、および軸線Y0周りに回転した際の変位を確実に監視することができる。

## 【0078】

## [実施の形態3]

図12は、本発明の実施の形態3に係る振れ補正機能付きの光学ユニット100における2つのフォトリフレクタのレイアウトを示す説明図であり、図12(a)、(b)は、発光部同士を近接させた形態の説明図、および受光部同士を近接させた形態の説明図である。なお、本形態の基本的な構成は実施の形態1と同様であるため、共通する部分には同一の符号を付して図示し、それらの説明を省略する。図12(a)に示すように、本形態の振れ補正機能付きの光学ユニット100でも、実施の形態1と同様、第1フォトリフレクタ580は、軸線X0に光軸L方向で重なる位置に配置されており、第2フォトリフレクタ590は、軸線Y0に光軸L方向で重なる位置に配置されている。また、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、長辺583、584、593、594がY軸方向に延在するように配置されており、図6～図9を参照して説明したように、フレキシブル配線基板410の帯状部分411の延在方向と平行である。

20

## 【0079】

ここで、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、発光部586、596同士が接近し、受光部587、597同士が離間する向きに配置されている。すなわち、第1フォトリフレクタ580の発光部586は、第2フォトリフレクタ590が位置する側に向いており、第2フォトリフレクタ590の発光部596は、第1フォトリフレクタ580が位置する側に向いている。また、第1フォトリフレクタ580の受光部587は、第2フォトリフレクタ590が位置する側とは反対側に向いており、第2フォトリフレクタ590の受光部597は、第1フォトリフレクタ580が位置する側と反対側に向いている。

30

## 【0080】

このように構成した第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590においても、第2フォトリフレクタ590の発光部596から出射された光が第1フォトリフレクタ580に入射し、第2フォトリフレクタ590の発光部596から出射された光が、第1フォトリフレクタ580に入射する可能性がある。しかるに本形態では、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、発光部586、596同士が接近し、受光部587、597同士が離間する向きに配置されている。このため、本形態によれば、図10を参照して説明した形態に比して、第2フォトリフレクタ590の発光部596から第1フォトリフレクタ580の受光部587までの距離が長い。それ故、第1フォトリフレクタ580の発光部586から出射された光が、矢印S1で示すように、第2フォトリフレクタ590に向かって進行しても、第2フォトリフレクタ590の受光部597に入射しにくい。また、第2フォトリフレクタ590の発光部596から出射された光が、矢印S2で示すように、第1フォトリフレクタ580に向かって進行しても

40

50

、第1フォトリフレクタ580の受光部597に入射しにくい。それ故、第1フォトリフレクタ580と第2フォトリフレクタ590との間においてクロストークが発生しないので、撮像ユニット1の軸線X0周りに回転した際の変位、および軸線Y0周りに回転した際の変位を確実に監視することができる。

【0081】

なお、図12(a)に示す構成とは反対に、図12(b)に示すように、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590において、受光部587、597同士が接近し、発光部586、596同士が離間するように構成した場合も、図12(a)に示す形態と同様な効果を得ることができる。

【0082】

[実施の形態4]

図13は、本発明の実施の形態4に係る振れ補正機能付きの光学ユニット100における2つのフォトリフレクタのレイアウト等を示す説明図であり、図13(a)、(b)は、発光部同士を近接させた形態の説明図、および受光部同士を近接させた形態の説明図である。なお、本形態の基本的な構成は実施の形態1と同様であるため、共通する部分には同一の符号を付して図示し、それらの説明を省略する。図13(a)に示すように、本形態の振れ補正機能付きの光学ユニット100でも、実施の形態1と同様、第1フォトリフレクタ580は、軸線X0に光軸L方向で重なる位置に配置されており、第2フォトリフレクタ590は、軸線Y0に光軸L方向で重なる位置に配置されている。また、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、長辺583、584、593、594がY軸方向に延在するように配置されており、図6～図9を参照して説明したように、フレキシブル配線基板410の帯状部分411の延在方向と平行である。

【0083】

ここで、図13(a)に示す形態では、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590は、実施の形態3と同様、発光部586、596同士が接近し、受光部587、597同士が離間する向きに配置されている。

【0084】

また、本形態では、実施の形態2と同様、第1フォトリフレクタ580の4つの側面部のうち、第2フォトリフレクタ590が位置する側に向く2つの側面には遮光層588、589が設けられ、第2フォトリフレクタ590の4つの側面部のうち、第1フォトリフレクタ580が位置する側に向く2つの側面には遮光層598、599が設けられている。このため、第1フォトリフレクタ580の発光部586から出射された光が、第2フォトリフレクタ590の受光部597に入射することがない。また、第2フォトリフレクタ590の発光部596から出射された光が、第1フォトリフレクタ580の受光部587に入射することがない。それ故、第1フォトリフレクタ580と第2フォトリフレクタ590との間においてクロストークが発生しないので、撮像ユニット1の軸線X0周りに回転した際の変位、および軸線Y0周りに回転した際の変位を確実に監視することができる。

【0085】

また、本形態では、実施の形態2と違って、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590において遮光層588、589、598、599が設けられている位置が点対称である。このため、第1フォトリフレクタ580と第2フォトリフレクタ590として同一構成のフォトリフレクタを用いることができ、部品の共通化を図ることができる。

【0086】

なお、図13(a)に示す構成とは反対に、図13(b)に示すように、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590において、受光部587、597同士が接近し、発光部586、596同士が離間するように構成した場合も、図13(a)に示す形態と同様な効果を得ることができる。

【0087】

(第1反射部716cおよび第2反射部717cの変形例)

上記実施の形態において、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590に対する第1反射部716cおよび第2反射部717cは、下カバー700の底板部710に設けた凹部716、717の内底面からなる構成であったが、第1反射部および第2反射部は、下カバー700において第1反射部の周りに位置する部分および第2反射部の周りに位置する部分と同一平面上にある構成を採用してもよい。かかる構成を採用した場合も、第1反射部および第2反射部が撮像ユニット1の底部に向けて突出した構成を採用した場合に比して、下カバー700には撮像ユニット1の底部に近接する部分を設けることができ、かかる近接部分に揺動支点180を設けることができる。従って、揺動支点180が占有する領域が狭く済むので、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590を配置するスペースを確保することができる。

10

【0088】

[他の実施の形態]

図11および図13に示す形態では、第1フォトリフレクタ580と第2フォトリフレクタ590とのクロストークを防止するという観点から、第1フォトリフレクタ580の4つの側面部のうち、第2フォトリフレクタ590が位置する側に向く2つの側面に遮光層を設け、第2フォトリフレクタ590の4つの側面部のうち、第1フォトリフレクタ580が位置する側に向く2つの側面に遮光層を設けたが、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590の4つの側面部全部に遮光層を設けてもよい。

【0089】

20

また、図11および図13に示す形態では、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590の双方の側面部に上記の遮光層を設けたが、第1フォトリフレクタ580と第2フォトリフレクタ590とのクロストークを防止するという観点からすれば、第1フォトリフレクタ580および第2フォトリフレクタ590の一方のフォトリフレクタの側面部のみに上記の遮光層を設けてもよい。

【0090】

上記実施の形態では、カメラ付き携帯電話機に用いる光学ユニット100に本発明を適用した例を説明したが、薄型のデジタルカメラ等に用いる光学ユニット100に本発明を適用してもよい。また、上記形態では、撮像ユニット1にレンズ1aや撮像素子1bに加えて、レンズ1aを含む移動体3を光軸方向に磁気駆動するレンズ駆動機構5が支持体2上に支持されている例を説明したが、撮像ユニット1にレンズ駆動機構5が搭載されていない固定焦点タイプの光学ユニットに本発明を適用してもよい。

30

【0091】

さらに、本発明を適用した振れ補正機能付きの光学ユニット100は、携帯電話機やデジタルカメラ等の他、冷蔵庫等、一定間隔で振動を有する装置内に固定し、遠隔操作可能にしておくことで、外出先、たとえば買い物の際に、冷蔵庫内部の情報を得ることができるサービスに用いることもできる。かかるサービスでは、姿勢安定化装置付きのカメラシステムであるため、冷蔵庫の振動があっても安定な画像を送信可能である。また、本装置を児童、学生のかばん、ランドセルあるいは帽子等の、通学時に装着するデバイスに固定してもよい。この場合、一定間隔で、周囲の様子を撮影し、あらかじめ定めたサーバへ画像を転送すると、この画像を保護者等が、遠隔地において観察することで、子供の安全を確保することができる。かかる用途では、カメラを意識することなく移動時の振動があっても鮮明な画像を撮影することができる。また、カメラモジュールのほかにGPSを搭載すれば、対象者の位置を同時に取得することも可能となり、万が一の事故の発生時には、場所と状況の確認が瞬時に行える。さらに、本発明を適用した振れ補正機能付き光学ユニット100を自動車において前方が撮影可能な位置に搭載すれば、ドライブレコーダーとして用いることができる。また、本発明を適用した振れ補正機能付き光学ユニット100を自動車において前方が撮影可能な位置に搭載して、一定間隔で自動的に周辺の画像を撮影し、決められたサーバに自動転送してもよい。また、カーナビゲーションの道路交通情報通信システム等の渋滞情報と連動させて、この画像を配信することで、渋滞の状況をよ

40

50

り詳細に提供することができる。かかるサービスによれば、自動車搭載のドライブレコーダーと同様に事故発生時等の状況を、意図せずに通りがかった第三者が記録し状況の検分に役立てることも可能である。また、自動車の振動に影響されることなく鮮明な画像を取得できる。かかる用途の場合、電源をオンにすると、制御部に指令信号が出力され、かかる指令信号に基づいて、振れ制御が開始される。

【 0 0 9 2 】

また、本発明を適用した振れ補正機能付きの光学ユニット 1 0 0 は、レーザポインタ、携帯用や車載用の投射表示装置や直視型表示装置等、光を出射する光学機器の振れ補正に適用してもよい。また、天体望遠鏡システムあるいは双眼鏡システム等、高倍率での観察において三脚等の補助固定装置を用いることなく観察するのに用いてもよい。また、狙撃用のライフル、あるいは戦車等の砲筒とすることで、トリガ時の振動に対して姿勢の安定化が図れるので、命中精度を高めることができる。

10

【符号の説明】

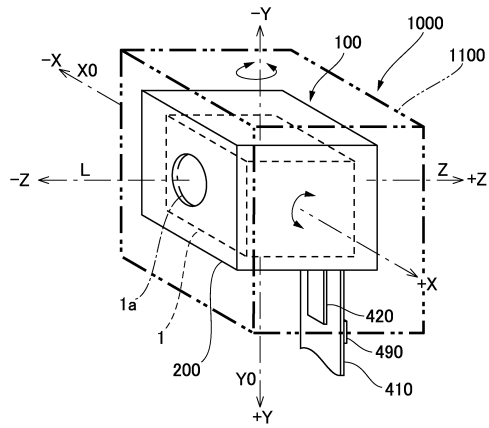
【 0 0 9 3 】

- 1 撮像ユニット（可動モジュール）
- 1 a レンズ（光学素子）
- 1 b 撮像素子（光学素子）
- 5 レンズ駆動機構
- 1 5 基板
- 1 0 0 光学ユニット
- 1 8 0 揺動支点
- 2 0 0 固定体
- 2 5 0 上カバー（固定体）
- 4 1 0、4 2 0 フレキシブル配線基板
- 5 0 0 振れ補正用駆動機構
- 5 0 0 x X側振れ補正用駆動機構
- 5 0 0 y Y側振れ補正用駆動機構
- 5 2 0 永久磁石
- 5 5 0 シート状コイル
- 5 6 0 コイル部
- 5 8 0 第1フォトリフレクタ
- 5 9 0 第2フォトリフレクタ
- 6 0 0 バネ部材
- 7 0 0 下カバー（固定体）
- 7 1 6 c 第1反射部
- 7 1 7 c 第2反射部

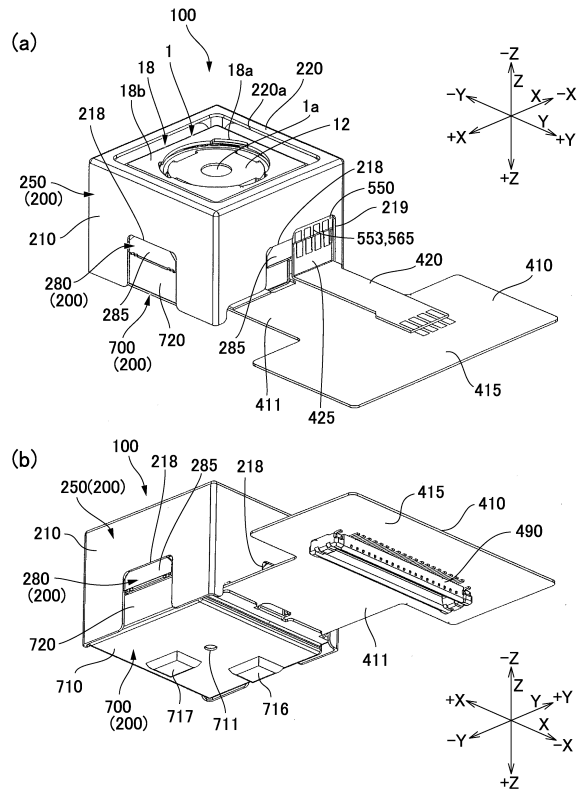
20

30

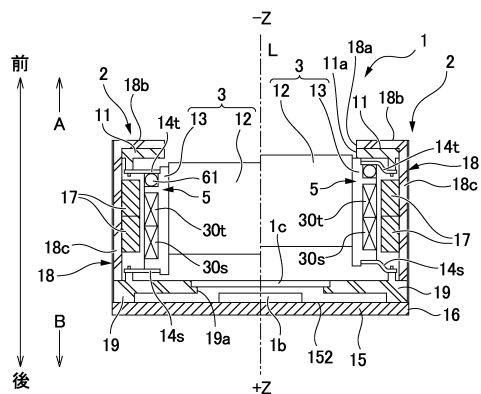
【図 1】



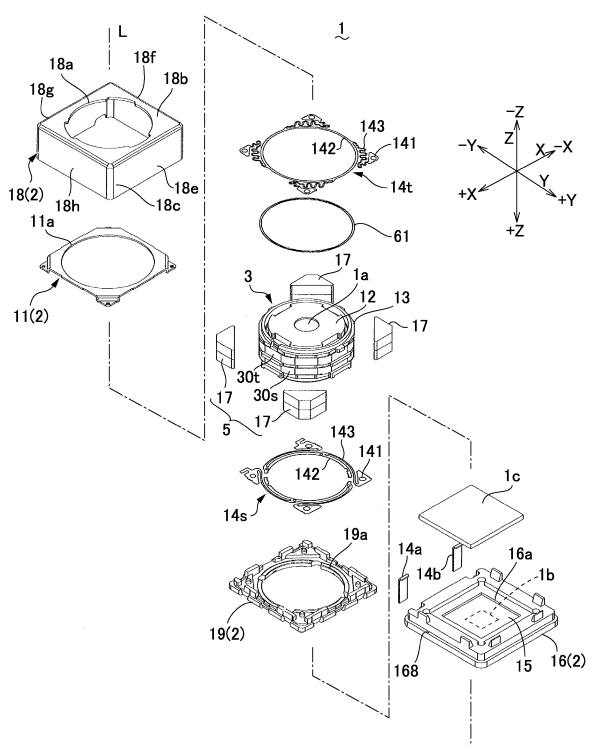
【図 2】



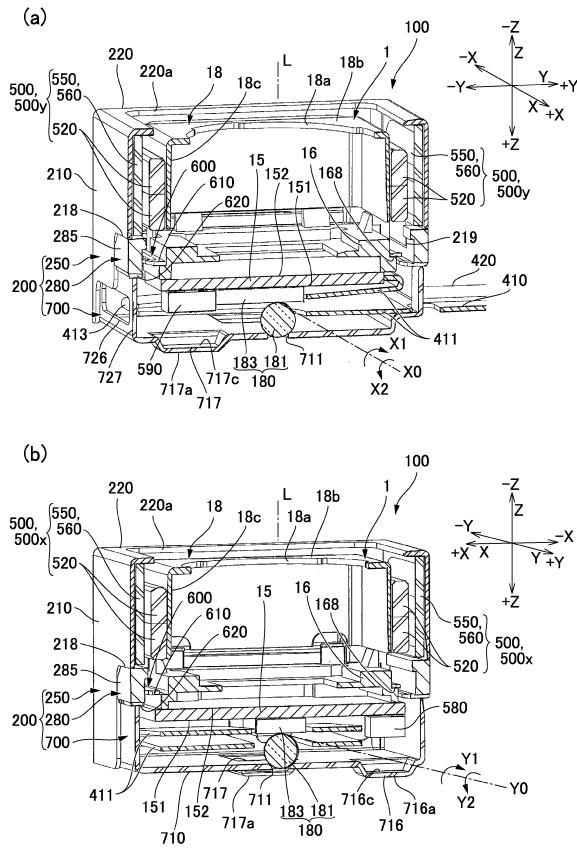
【図 3】



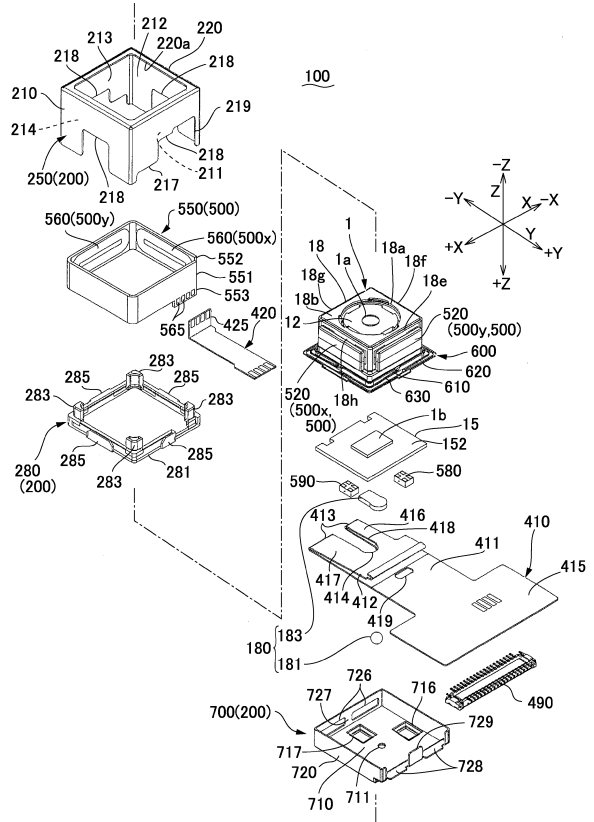
【図 4】



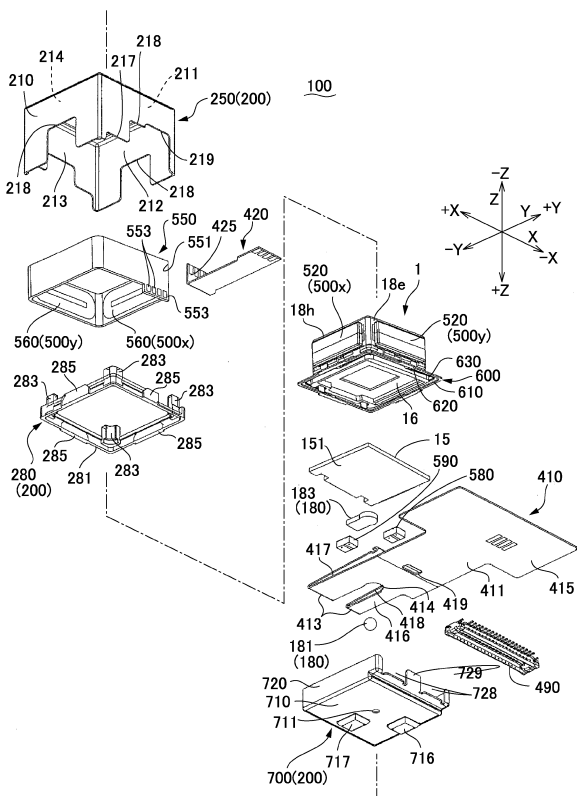
【図 5】



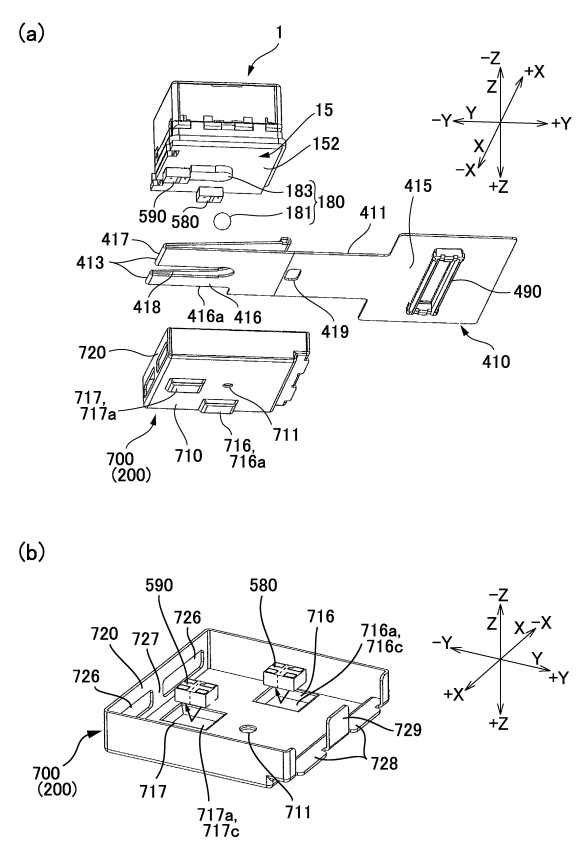
【図 6】



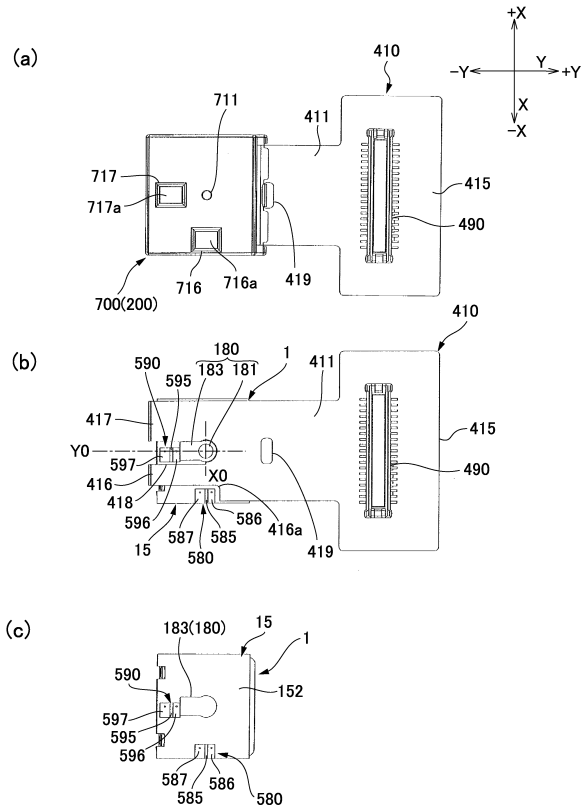
【図 7】



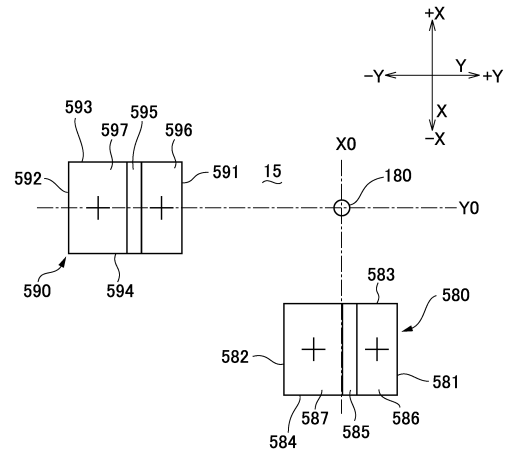
【図 8】



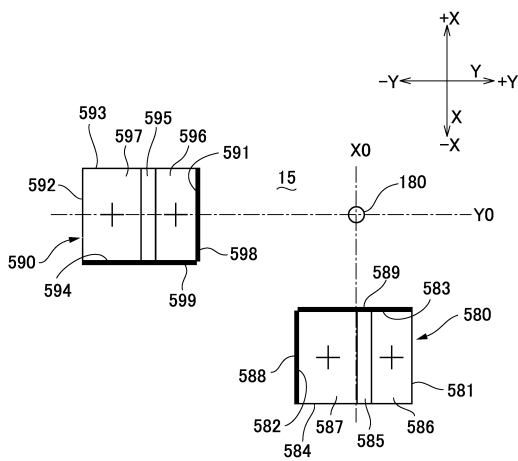
【図 9】



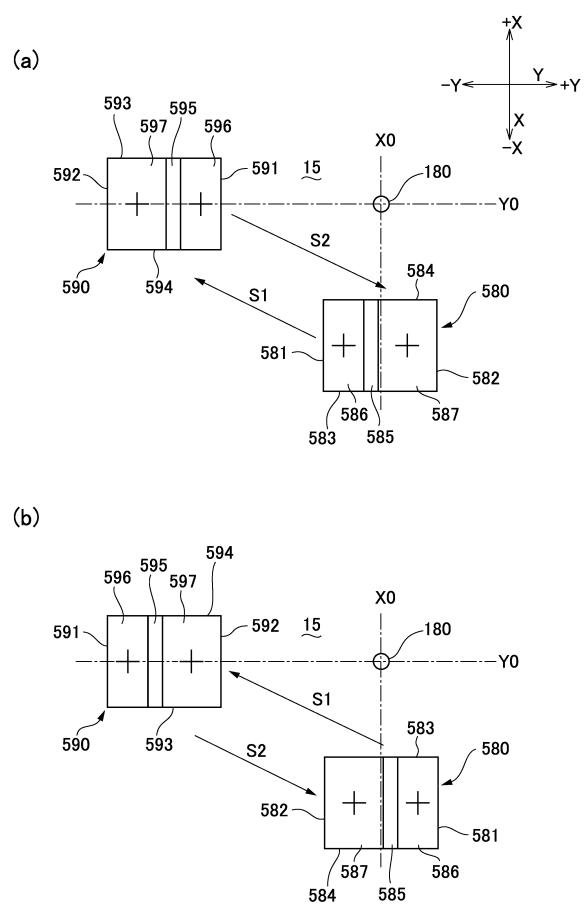
【図 10】



【図 11】

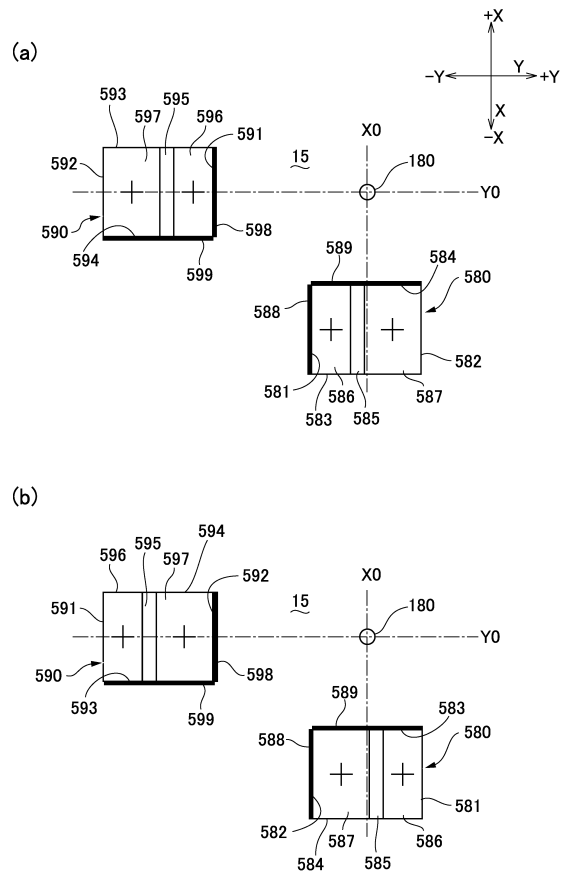


【図 12】





【図 13】



## フロントページの続き

- (72)発明者 浅川 新六  
長野県諏訪郡下諏訪町 5 3 2 9 番地 日本電産サンキョー株式会社内
- (72)発明者 南澤 伸司  
長野県諏訪郡下諏訪町 5 3 2 9 番地 日本電産サンキョー株式会社内
- (72)発明者 唐澤 敏行  
長野県諏訪郡下諏訪町 5 3 2 9 番地 日本電産サンキョー株式会社内
- (72)発明者 柳澤 克重  
長野県諏訪郡下諏訪町 5 3 2 9 番地 日本電産サンキョー株式会社内
- (72)発明者 濱田 吉博  
長野県諏訪郡下諏訪町 5 3 2 9 番地 日本電産サンキョー株式会社内
- (72)発明者 内藤 速人  
長野県諏訪郡下諏訪町 5 3 2 9 番地 日本電産サンキョー株式会社内
- (72)発明者 小松 亮二  
長野県諏訪郡下諏訪町 5 3 2 9 番地 日本電産サンキョー株式会社内
- (72)発明者 石原 久寛  
長野県諏訪郡下諏訪町 5 3 2 9 番地 日本電産サンキョー株式会社内

審査官 小倉 宏之

- (56)参考文献 国際公開第 2 0 0 9 / 1 3 3 6 9 0 ( W O , A 1 )  
特開 2 0 1 0 - 0 7 2 5 6 3 ( J P , A )  
特開 2 0 1 0 - 0 9 6 8 5 8 ( J P , A )  
特開 2 0 0 6 - 3 5 2 4 1 8 ( J P , A )  
特開 2 0 0 3 - 1 1 0 9 2 9 ( J P , A )  
特開 2 0 0 6 - 0 5 8 5 5 5 ( J P , A )  
特開 2 0 0 7 - 0 4 3 1 2 9 ( J P , A )  
特開平 1 1 - 2 8 9 1 0 5 ( J P , A )  
特開平 1 1 - 3 5 2 5 4 4 ( J P , A )  
特開 2 0 0 8 - 1 9 7 2 0 9 ( J P , A )

- (58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)  
G 0 3 B 5 / 0 0